出題意図と評価の観点

問1：本文の内容を踏まえて、「《他者の他者》としてのじぶんの存在の欠落」とは何か説明しなさい。(100字以内)

出題意図

本文の主旨を踏まえて、適切な情報を選択し、表現できるかを問う。

(評価の観点)

- ・じぶんの存在は、「じぶんの行動が〈意味〉するところを他者に知らされることによって教えられる」「じぶんの行動が他者に及ぼす〈効果〉によって教えられるもの」であるが、これらの欠落といったことが説明に含まれているか
- ・「じぶんを他者にとって意味あるものとして経験できない」といった趣旨が説明に含まれているか
- ・「じぶんにとっての他者になんの影響もあたえられない」といった趣旨が説明に含まれているか

問2：本文を読んで、教える／教えられるといった教師と生徒のあいだの関係について、あなたの考えを述べなさい。ただし、著者の主張する「たとえ一方通行的な関係であっても、自他はどこまでも相互補完的なものである」に対するあなたの意見を含むこと。(600字以上 1000字以内)

出題意図

本文の内容を踏まえて、受験生が自らの考えを論理的に説明できるかを問う。

2020年度にスタートした『新しい学習指導要領』（小学校：2020年度～ 中学校：2021年度～ 高等学校：2022年度～ 特別支援学校は、小・中・高等学校学習指導要領に合わせ実施）の主題は「生きる力 学びの、その先へ」であり、絶えず変化し多様化する社会において、学校教育は「生きる力」を育むことを主題としている。

知識及び技能、思考力・判断力・表現力などの個人スキルの向上だけでなく、学びに向かう力・人間性等といった周りの人たちと共に考え、学び、「共に生きていく」という感覚を育むことも、教育に携わる教師に求められる資質である。広い視野で教育を理解し、児童生徒に働きかける姿勢を問うことは、発達の援助者であり文化の伝達者である教師という職業、あるいは教育に対する情熱や誠実さを持った人材を求めるというアドミッションポリシーにも対応する。

(評価の観点)

- ・本文内の著者が主張する「たとえ一方通行的な関係であっても、自他はどこまでも相互補完的なものである」に対する自身の意見が述べられているか
- ・教える／教えられるといった教師と生徒のあいだの関係に対する自身の考えが述べられているか
- ・以上に加え、教育学部 AP（アドミッションポリシー）の観点をもとに評価を行う